

# 新学習指導要領の趣旨を踏まえた国語の授業づくり

国語科は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目標としています。単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが大切です。

「とっとりの授業改革【10の視点】」と関連付け、国語の授業をより良くつくっていきましょう。



## ① 育成すべき資質・能力の明確化

関連▶【10の視点①】  
魅力的な課題・教材の提示

- ・ 学習指導要領を手がかりに、単元を通して育成すべき資質・能力を明確に捉える
- ・ 育成すべき資質・能力を意識して、単元全体の学習過程を構成する
- ・ 資質・能力の系統を把握し、前後の学年、他教科とのつながりを踏まえて指導する

## ② 言語活動を明確に位置付けた単元の構成

関連▶【10の視点⑤⑥】  
説明・発表の機会の充実  
学び合う活動の充実

- ・ 言語活動の目的（ゴール）と見通し（プロセス）を子どもたちと共有する
- ・ 言語活動のモデルをつかって子どもたちに示す（構成、文字制限、音声等）
- ・ 言語活動をめぐって多面的な見方・考え方を共有できる対話を取り入れる

## ③ 適切な評価規準と評価方法の設定

関連▶【10の視点⑦⑧】  
学習評価の推進 学習を振り返る活動の設定

- ・ 目標に対する評価規準と評価方法を明確にし、子どもの学習状況を計画的に見取り、記録に取る
- ・ 子どもたちの学びの状況を想定し、全員が「おおむね満足できる状況」に達成できるための手立てを講じる
- ・ 子どもたちが学びを自覚し、次の時間や単元につながる振り返りの充実を図る

# 新学習指導要領の趣旨を踏まえた小学校国語の授業づくり【実践編(文学的文章)】

「内容を読み取るだけ」「感想を言い合うだけ」に陥らず、文学的な文章を通して国語の資質・能力を確実に育成する授業づくりが必要です。育成すべき資質・能力を明確にし、適切な言語活動を選定し、指導と評価の一体化を図っていくことで、子どもたちの確かな読みの力と豊かな想像力を育みます。

4年 物語を読んで考えたことなどをリーフレットにまとめよう 教材：「走れ」（東京書籍 4年上）

## ① 育成すべき資質・能力の明確化

単元を構成する際には、子どもの実態と学習指導要領を拠りどころにして、当該単元で育成すべき力を明確に把握しておく必要があります。

〔知識及び技能〕〔思考力・判断力・表現力等〕〔学びに向かう力、人間性等〕の3つの観点から、単元目標を設定しましょう。

児童の実態と指導事項の系統を踏まえて指導しましょう。

### 【単元目標】

(1) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる

(指導事項〔知識及び技能〕ク音読、朗読)

(2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる

(指導事項〔思考力・判断力・表現力等〕)

C読むこと 工精査・解釈)

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとしている。

### ★学習過程に即した指導事項の重点化

C 読むこと	【第3学年及び第4学年の内容】
構造と内容の把握	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること
精査・解釈	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること
考えの形成	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと
共有	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと

## ② 言語活動を明確に位置付けた単元の構成

単元を通して育成すべき力と、それぞれの言語活動がもつよさや特徴との整合性を考えて設定しましょう。

学習指導要領解説の言語活動例を参考にしましょう。



精査・解釈をするときは、どこで人物の気持ちが大きく変化したのか、どのように変わったのか、どうしてその変化が起きたのかを子どもが考えられるようにする必要があります。

### ★単元で取り上げる言語活動

#### 言語活動例イ

詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動



#### 【言語活動】

人物の気持ちの変化を考えて読み、これまでの体験を基に、読んだ感想をリーフレット形式にまとめる。

感想、考え	物語についての様子・気持ち	変化しただけの様子・気持ち	変化した理由	変化のきっかけ	変化する前の様子・気持ち
-------	---------------	---------------	--------	---------	--------------

場面の移り変わりとともに描かれる登場人物の気持ちが、どのように変化しているのかを具体的に思い描くことが大切です。



### ★言語活動のモデルの提示

教師自身が、事前に言語活動を試行しておくことで、具体的なゴールのイメージをもつことができます。また、言語活動の目的と見通しを子どもたちと共有しましょう。

## ③ 適切な評価規準と評価方法の設定

何がどのようにできたらよいのか、具体的な姿を明確にしておきましょう。子どもの学習状況を計画的に見取り、記録に取ることが大切です。子どもの学習状況に即して、全員が指導目標を「おおむね満足できる状況」に達成できるようにしましょう。

評価規準は、指導事項の文頭、文末の表現を変えることで作成することができます。



### ★単元の評価規準

「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。

### ★評価方法

第二次の4時間目は、リーフレットの真ん中のページの記述を評価しよう



【おおむね満足できる状況】

(例)のぶよの気持ちが変わったのは、お母さんとけんじの「走れ」の声が重なったのを聞いたからです。自分が2人の仲直りのきっかけを作ることができたから、ビリになってもほこらしかったのです。

★【おおむね満足できる状況】に達成するのが難しい子どもの状況を想定しておき、手立てを考えておくことが大切です。

(例1)主人公の気持ちが大きく変わった一文を選ばせて、選んだ理由を問う

(例2)前後の場面の主人公の気持ちを比較させる

### ★振り返り

子どもたちが自分の変容を自覚し、学びの実感を得て次の学習への意欲をもつことができるよう、振り返りの充実を図りましょう。